



意外と知らない!? オラクル・ライセンス見積ABC

– Oracle Database編 –

日本オラクル株式会社

September 2025

本資料は、2025年9月24日時点の情報として有効です

Safe harbor statement

The following is intended to outline our general product direction. It is intended for information purposes only, and may not be incorporated into any contract. It is not a commitment to deliver any material, code, or functionality, and should not be relied upon in making purchasing decisions.

The development, release, timing, and pricing of any features or functionality described for Oracle's products may change and remains at the sole discretion of Oracle Corporation.



Program agenda

- 1 ライセンスの種類
- 2 ライセンス許諾形態
- 3 Oracle Database製品ラインナップ
- 4 マルチコアCPU利用時のライセンスカウント方法
- 5 ライセンス見積方法 ~6つのステップ~



Program agenda

- 1 ライセンスの種類
- 2 ライセンス許諾形態
- 3 Oracle Database製品ラインナップ
- 4 マルチコアCPU利用時のライセンスカウント方法
- 5 ライセンス見積方法 ~6つのステップ~

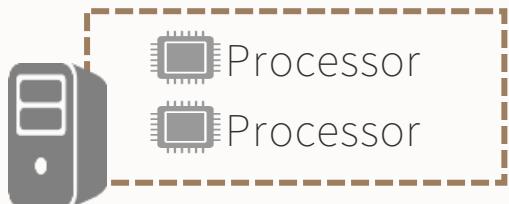


ライセンスの種類

Oracle製品のライセンスは以下の2種類から一つを選択します

Processor ライセンス

サーバーのプロセッサ数に比例したライセンスです。
一般的に使用ユーザー数が多い場合に有利です。
また不特定多数が利用するためユーザー数を数えられない場合
やユーザー数の変更の影響を受けたくない場合にはこちらをご
利用ください。



Oracle製品がインストールされるサーバーに
搭載されているプロセッサ数で算出
※マルチコアプロセッサの場合は製品によりコア係数適用が必要※1

Named User Plus (NUP) ライセンス

使用するユーザーの数に比例したライセンスです。
一般的にユーザー数が少ない場合に有利です。
購入可能な最少単位を示す「最少ユーザー数」の設定があり
ます。

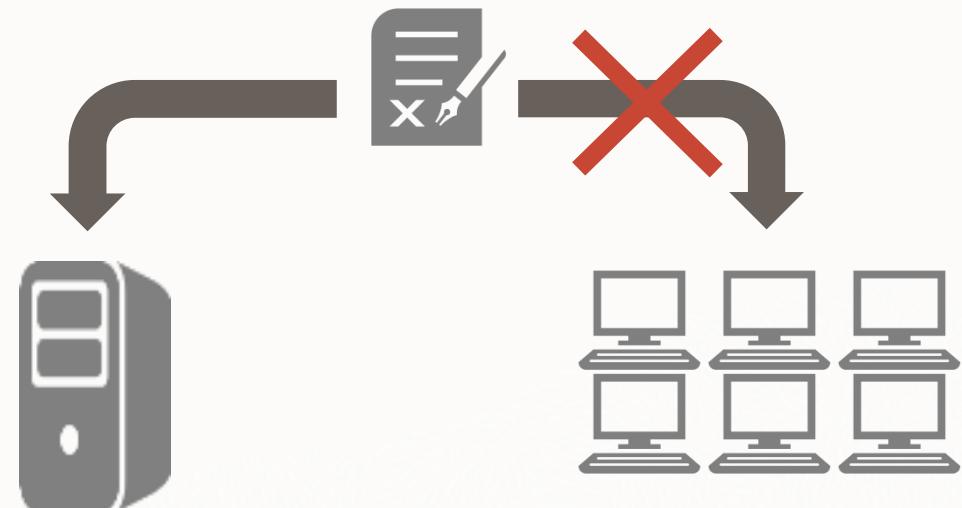


Oracle製品がインストールされるサーバーに
アクセスする可能性がある全ての使用者の数で算出
※同時接続数、クライアント台数等はカウントしません

ライセンス許諾形態

Oracleのサーバー製品のライセンスはサーバに対するライセンス許諾になります

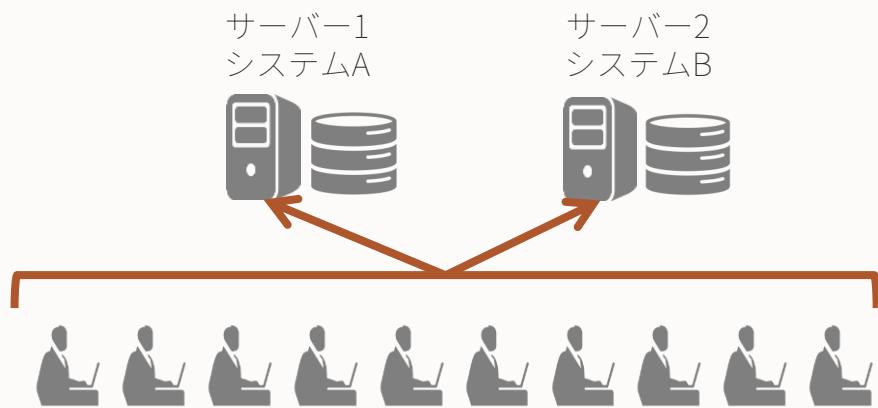
- このOracle製品を何人で使うか?
→ NUPライセンス
- or
- このOracle製品がインストールされているハードウェアのCPUの枚数は?
→ Processorライセンス



※Oracleではクライアント向けライセンスは存在しません

ライセンス許諾形態

Oracleのサーバー製品のライセンスは物理サーバー単位で必要です

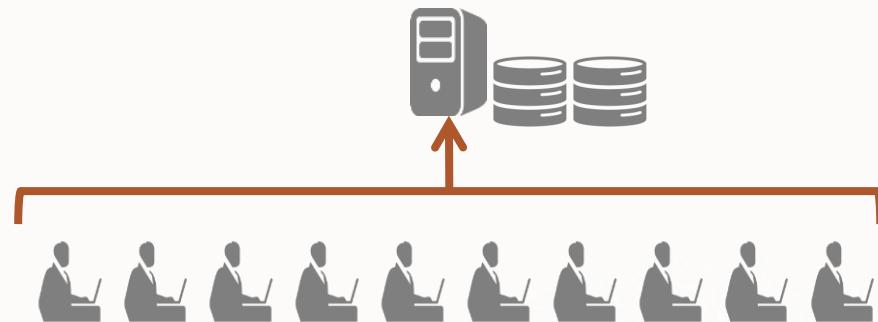


サーバー単位でライセンスが発生するため、
必要なライセンスは

- サーバー1 DB SE2 10NUP
- サーバー2 DB SE2 10NUP

合計 DB SE2 20NUP

サーバーを1台にまとめ、インスタンスを分け、
システムAとシステムBを同居させた場合



サーバー単位でライセンスが発生するため、
必要なライセンスは

- サーバー1台 DB SE2 10NUP

合計 DB SE2 10NUP

Program agenda

- 1 ライセンスの種類
- 2 ライセンス許諾形態
- 3 Oracle Database製品ラインナップ
- 4 マルチコアCPU利用時のライセンスカウント方法
- 5 ライセンス見積方法～6つのステップ～



Oracle Database製品 ラインナップ

Oracle Database Enterprise Edition (DB EE)

- ・パフォーマンス向上、可用性向上、セキュリティ強化等のさまざまな機能が利用できます。
有償オプションの追加も可能です。
- ・最少ユーザ数は、**25NUP/1Processorライセンス**です。
※ NUPでご購入の場合でも、最少ユーザー数を求めるためにProcessorライセンス数の計算が必要になります。
- ・マルチコアプロセッサご利用の場合、コア係数の適用が必要です。

Oracle Database Standard Edition 2 (DB SE2)

- ・手ごろな価格で必要な機能を備えたデータベースです。
- ・適用可能ハードウェア (H/W) の制限があります。 (次ページ参照)
- ・最少ユーザ数は、**10NUP/1コンピュータ**です。



Standard Edition 2 (SE2) について

- Oracle Database Standard Edition 2 は、最大搭載可能プロセッサ数が^{※1}2(2ソケット)のサーバーに対してのみ、使用権許諾されます。
- 許諾されたライセンス数量に関わらず、各 Oracle Database Standard Edition 2 データベースは常時1インスタンスあたり最大16CPUスレッド^{※2}を使用することができます。
- お客様がNamed User Plus (NUP) ライセンスを注文する場合、1台のサーバを使用するユーザ数が10名未満でも10NUPが必要となります。

※1：最大搭載可能プロセッサ数(ソケット)については、以下URLの用語解説内、Processorライセンス項目も併せてご参照ください。

<http://www.oracle.com/jp/corporate/pricing/word/index.html>

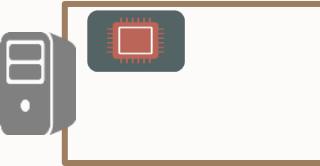
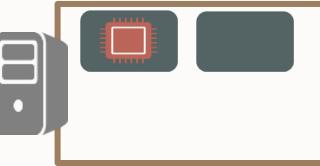
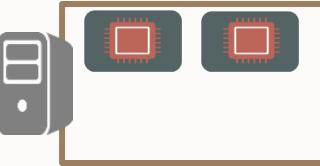
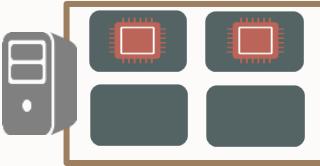
マルチチップ・モジュールについては以下のFAQをご確認ください。

https://faq.oracle.co.jp/app/answers/detail/a_id/2623

※2：CPUスレッドは、搭載されているCPUコア数とは必ずしも同一ではなく、例えばインテル社のCPUを搭載し、そのCPUでハイパー・スレッディングが有効な場合、OSが認識している論理的なCPUコアを指します。SE2でのCPUスレッドの制限はOracle Database 12c (12.1.0.2) 以降のソフトウェアでの技術的な制限として実装されおり、お客様で設定いただく必要はありません。



Standard Edition 2 (SE2) ご利用可否例

サーバー構成イメージ	Case1	Case2	Case3	Case4
				
最大搭載可能プロセッサ数 (ソケット数)	1	2	2	4
実搭載プロセッサ数	1	1	2	2
SE2利用可否	○	○	○	✗
補足	搭載可能プロセッサ数が2(2ソケット)以内のため、SE2利用可能です。	搭載可能プロセッサ数が2(2ソケット)以内のため、SE2利用可能です。	搭載可能プロセッサ数が2(2ソケット)以内のため、SE2利用可能です。	搭載可能プロセッサ数が2(2ソケット)以上のため、SE2は利用できません。

Oracle Database製品の価格

価格はすべて税抜き価格です

製品名	価格単位	ライセンス価格 ※1	初年度サポート ※1
Oracle Database Enterprise Edition	Named User Plus	147,250円	32,395円
	Processor	7,362,500円	1,619,750円
Oracle Database Standard Edition 2	Named User Plus	54,250円	11,935円
	Processor	2,712,500円	596,750円

※1 価格は2025年9月時点のものです。最新の価格は、日本オラクルホームページの価格情報、またはOracle Salesまでお問合せください。



サポート・サービスの主な内容について

24時間×365日 無制限で問合せを受付

- 夜間・休日を問わず、緊急性の高いトラブルには即時対応

ソフトウェアのアップデート版の提供

- 将来の製品リリースやアップグレード、セキュリティ修正、修正パッチ、法改正対応
- 新バージョンは何度でも追加コストの負担なく入手可能

契約ユーザー様専用ウェブサイト（My Oracle Support）のご提供

- エラーの潜在要因を除去し問題の発生を未然に防止
ヘルス・チェック – 危険な設定や構成の検査と対処方法、（ナレッジやベスト・プラクティス）を提供
パッチ・アドバイス – パッチ適用状況を監視し、未適用の重要パッチのダウンロードを支援

お見積り時には、サポート契約をあわせてご検討ください

※ サポート・サービスの詳細は、日本オラクルホームページ、またはサポートビジネスセンターまでお問合せください



【補足】既存のSE/SE1の取り扱いについて

既存のSE/SE1の取り扱いについて

- 12.1.0.1がSEとSE1の最終リリースであり、SE/SE1は既に販売を終了しています。
- 既存のお客様が、SE又はSE1を既存バージョン(12.1.0.1以前)で使用する場合はサポートは継続されます。12.1.0.2以降の製品を使用する場合、SE2にマイグレーションする必要があります。

SE、SE1からSE2へのライセンス移行（マイグレーション）について

- SE、SE1とともに、ライセンスは無償でSE2にマイグレーションできます。
ただし、SE2の最少ユーザー数に満たないNUPライセンスをマイグレーションする場合は、
最少ユーザー数に対する不足分について、SE2のライセンスを追加購入する必要があります。
(SE2の最少ユーザー数は、物理サーバー毎に10 NUPです。)
- 参考FAQ https://faq.oracle.co.jp/app/answers/detail/a_id/2798



Program agenda

- 1 ライセンスの種類
- 2 ライセンス許諾形態
- 3 Oracle Database製品ラインナップ
- 4 マルチコアCPU利用時のライセンスカウント方法
- 5 ライセンス見積方法～6つのステップ～



マルチコアCPU利用時のライセンスカウント

- ライセンスが必要なプロセッサ数をカウントする場合、稼動する全ての「物理的」なプロセッサをカウントします。
- 但し、Oracle Database Enterprise Editionにおいて、ひとつのチップ上に複数のコアをもつ「マルチコア・プロセッサ」が搭載されているハードウェアでご利用頂く場合には、総コア数に係数を乗じた数（小数点以下端数切り上げ）が必要ライセンス数となります。
 - Oracle Database Standard Edition 2の場合には、マルチコア・プロセッサであっても実搭載プロセッサ数が必要ライセンス数となります。
- 下表は代表的なCPUとその適用係数となります。

マルチコア・プロセッサ種類 ※1	適用係数 ※1
SPARC S7 processor	0.5
Intel Xeon Processor	0.5
POWER 9	1.0

※1：上記は2025年9月時点の情報であり、各社が提供しているCPUの一例となります。同じメーカー様でもシリーズ等による適用係数の違いがありますので、詳細は日本オラクルのホームページより「Oracle Processor Core Factor Table」をご参照ください。

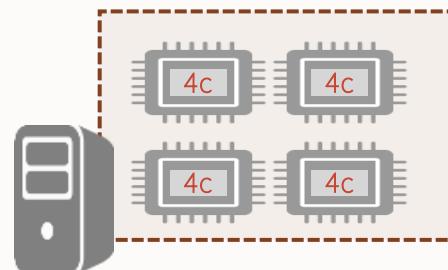
※ マルチチップ・モジュールについては以下のサイトをご確認ください。
<http://www.oracle.com/jp/corporate/pricing/word/index.html>
https://faq.oracle.co.jp/app/answers/detail/a_id/2796



マルチコアプロセッサ利用時のDBEE必要ライセンス例

例1

コアの適用係数 0.5 の
マルチコア・プロセッサ



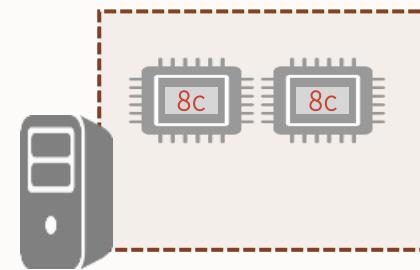
例:Intel Xeon系マルチコアチップ
4プロセッサ、クアッドコア搭載の場合

必要ライセンス数：
4プロセッサ × 4コア × 0.5
= 8 Processor

※ 最少ユーザ数は $25\text{NUP} \times 8 = 200\text{NUP}$ (EE)

例2

コアの適用係数 1.0 の
マルチコア・プロセッサ



例:IBM Power8
2プロセッサ、8コア搭載の場合

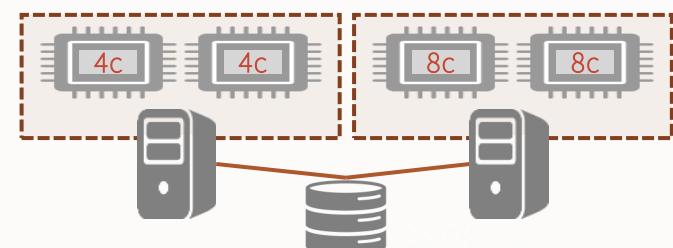
必要ライセンス数：
2プロセッサ × 8コア × 1.0
= 16 Processor

※ 最少ユーザ数は $25\text{NUP} \times 16 = 400\text{NUP}$ (EE)

例3

Real Application Clusters
(RAC)構成の場合

RACを用いたクラスタシステム構成の場合、
複数台のコンピュータで構成されるシステム全体
をひとつつのコンピュータと見なします。



例:RAC構成の場合

必要ライセンス数：
コアの適用係数 0.5 の場合
トータル 24コア × 0.5
= 12 Processor

※ 最少ユーザ数は
 $(25\text{NUP} \times 8 \times 0.5) + (25\text{NUP} \times 16 \times 0.5) = 300\text{NUP}$ (EE)

Program agenda

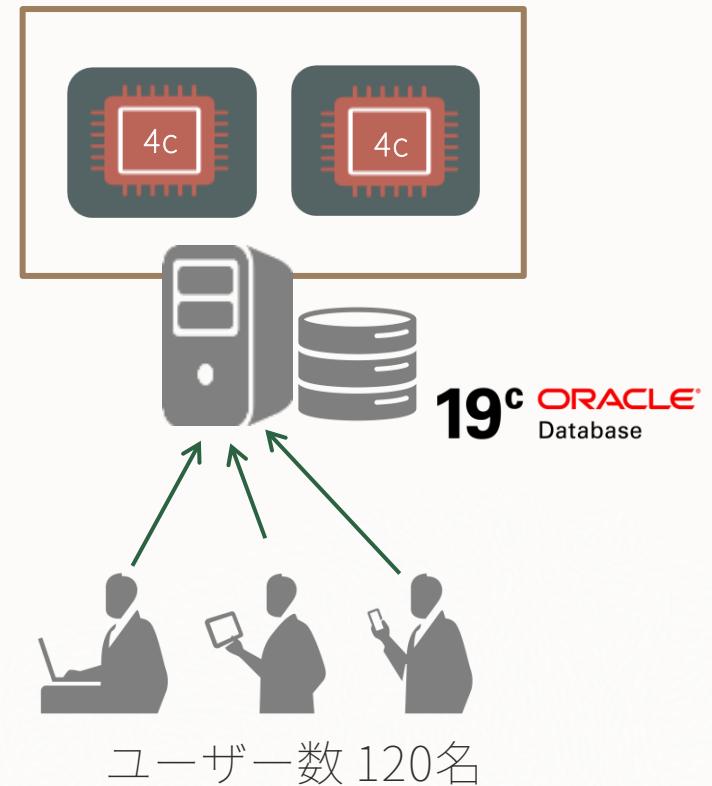
- 1 ライセンスの種類
- 2 ライセンス許諾形態
- 3 Oracle Database製品ラインナップ
- 4 マルチコアCPU利用時のライセンスカウント方法
- 5 ライセンス見積方法～6つのステップ～



ライセンス見積方法～6つのステップ～

Oracle Server X8-2 サーバー

- プロセッサ
 - Intel® Xeon® Gold 5222 processor: 3.8 GHz, 4 cores, 105 watts, XCC, 16.50 MB L3 Cache
 - プロセッサあたり4コア
- OS: Oracle Linux (64-bit)
- 最大搭載可能CPU数: 2
- 実搭載CPU数: 2
- データベース使用人数: 120名
- データベース: Oracle Database 19c



ライセンス見積方法～6つのステップ～

Standard Edition 2 (SE2) の場合

STEP 1

SE2 ハードウェア制限の確認

- 最大搭載可能なCPU数：2ソケット

→最大搭載可能CPU数：2なのでSE2の利用OK

Enterprise Edition (EE) の場合

STEP 2

Processorライセンスの場合の計算

- SE2はマルチコアプロセッサ利用時のコア係数の適用が不要なため、コア数に関係なく実装CPU数でカウント
- よって、**2 Processorライセンス**
- $2,712,500\text{円} \times 2 \text{ Processorライセンス}$
= **5,425,000円**

Enterprise Editionのため、
SE2ハードウェア制限の確認は不要

Processorライセンスの場合の計算

- EEはマルチコアプロセッサ利用時のコア係数の適用が必要なため、総コア数に係数を乗じた数でカウント
- よって、 $2 \text{ Processor} \times 4 \text{ Core} \times 0.5$ (コア係数)
= **4 Processorライセンス**
- $7,362,500\text{円} \times 4 \text{ Processorライセンス}$
= **29,450,000円**

※ 価格は2025年9月時点のものです。



ライセンス見積方法～6つのステップ～

STEP 3

Named User Plusライセンスの場合、
必要数量を判定
最少ユーザー数の確認

- 1コンピュータあたり10ユーザー(10 Named User Plus) なので、今回の構成の場合の最少ユーザー数は10

→データベースへのアクセスユーザー数：120名なので
最少ユーザー数を満たしており、必要数量は120 ※1

STEP 4

Named User Plusライセンスの計算
• $54,250\text{円} \times 120\text{名} = 6,510,000\text{円}$

Standard Edition 2 (SE2) の場合

Enterprise Edition (EE) の場合

Named User Plusライセンスの場合、
必要数量を判定
最少ユーザー数の確認

- 1Processorライセンスあたり25ユーザー(25 Named User Plus) なので、今回の構成の場合の最少ユーザー数は4 Processorライセンス $\times 25\text{ NUP} = 100$

→データベースへのアクセスユーザー数：120名なので
最少ユーザー数を満たしており、必要数量は120 ※1

Named User Plusライセンスの計算
• $147,250\text{円} \times 120\text{名} = 17,670,000\text{円}$

※1 最少ユーザー数を満たしていない場合は、最少ユーザー数分を購入する必要があります。

※ 価格は2025年9月時点のものです。

ライセンス見積方法～6つのステップ～

STEP 5

Named User PlusライセンスとProcessorライセンスの比較

- Named User Plus 6,510,000円
- Processor 5,425,000円

STEP 6

初年度サポート料金の見積り

Named User Plusライセンスを選択した場合

- 11,935円 × 120 Named User Plus
= 1,432,200円

Processorライセンスを選択した場合

- 596,750円 × 2 Processor
= 1,193,500円

Standard Edition 2 (SE2) の場合

Enterprise Edition (EE) の場合

Named User PlusライセンスとProcessorライセンスの比較

- Named User Plus 17,670,000円
- Processor 29,450,000円

初年度サポート料金の見積り

Named User Plusライセンスを選択した場合

- 32,395円 × 120 Named User Plus
= 3,887,400円

Processorライセンスを選択した場合

- 1,619,750円 × 4 Processor
= 6,479,000円

※ 価格は2025年9月時点のものです。

FAQのご案内

製品、ライセンス、価格、サポート契約などに関するよくあるお問い合わせとその回答を、カテゴリやキーワードから検索できます。



いますぐFAQにアクセス

faq.oracle.co.jp



Oracle Salesはオラクルの製品やクラウドサービスのご購入・ご導入に関するご相談窓口です。お問い合わせ後はお客様ごとに担当営業が付き、オラクル製品/サービスの導入をご支援します。

お電話 050-3615-0035

受付時間 月～金 9:00-12:00 / 13:00-17:00 (祝日および年末年始休業日を除きます)

Webフォーム、チャットでのお問い合わせは **oracle.com/jp/contact-us**



Thank you



A close-up photograph of a person's upper torso. They are wearing a yellow and black horizontally striped shirt. The background is dark and out of focus.

ORACLE